

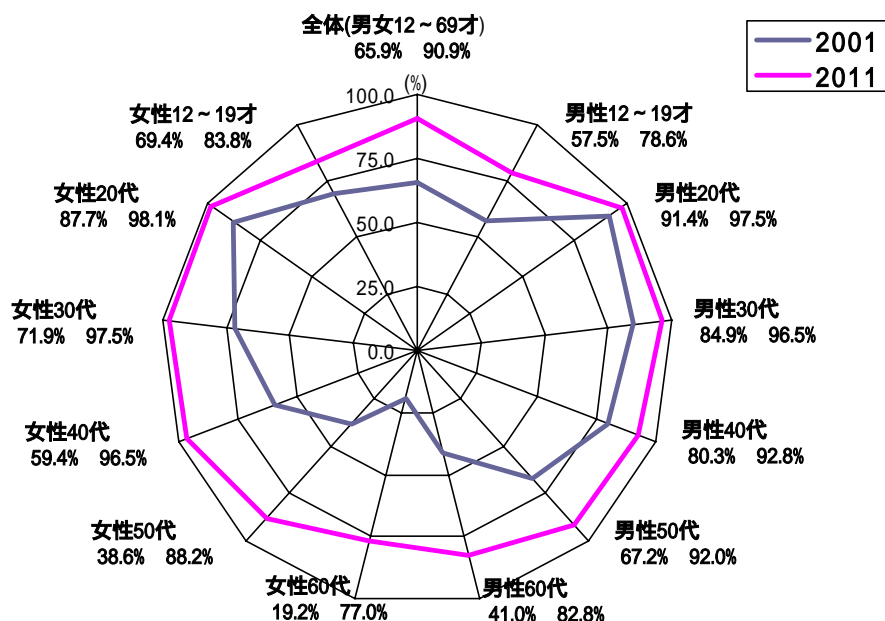
2012年1月24日

ケイタイ ツール  
**“携帯電話という生活必需品”**

ACR調査が導き出す、日本の現代ケータイ事情

ビデオリサーチで年に1回実施しているACR調査結果から、あらためて携帯電話に焦点をあて、普及状況の変化等を見てみました。今では電車の中で携帯電話とにらめっこする姿や、観光地などでも携帯電話で撮影することも当たり前になり、携帯電話が連絡のための道具ではなく、様々なシーンで活用されるツールとなっていることを実感します。又、携帯電話との向き合い方等について、インターネット調査を実施いたしました。

**携帯電話(PHS含む)所有率の推移**



2001年は携帯電話とPHSの所有を別々に質問し合算したものの。  
 2011年は携帯電話・PHS・スマートフォンの所有をまとめて質問し集計したものの。  
 ACR 7地区計(東京 30Km 圏 + 関西 + 名古屋 + 北部九州 + 札幌 + 仙台 + 広島)ウエイト付き集計

携帯電話の所有率を全体で比較すると10年前は6割強だったものが2011年には9割を超えています。また、所有率が低かった10代や50・60代も2011年には、それぞれ8割から9割に達し、ほとんどの人が携帯電話を所有していることが分ります。  
 携帯電話は生活必需品のひとつとして市民権を得たと言っても過言ではないでしょう。

**ACRとは？**



ACR (Audience and Consumer Report) は、ビデオリサーチが行っているメディア統合関連調査です。ひとりの生活者を「Audience (媒体接触者)」と「Consumer (消費者)」の2側面で見え、媒体接触状況と、消費・購買状況を同時に調査することを特徴にしています。主要7地区、8,700サンプルという日本最大規模の調査を行っています。 <http://www.videor.co.jp/service/media/acr/index.htm>

2011年1月24日

## あなたにとって携帯電話は持って安心？便利？厄介？

意外な「感情」や「行動」が浮き彫りに～インターネット調査より～

携帯電話に便利さを感じる半面、依存しすぎる風潮に不安を感じる人もいるのでは？  
そこで皆さんが携帯電話に対してどのような思いを持っているか、調べてみました。

### 多くの人にとって携帯電話は頼りになる存在。ただし、利用マナーには結構敏感！

「携帯電話を持ち歩いていると安心感がある」(72.9%)、「携帯電話は頼りになる」(84.9%)など、携帯電話は日常生活に浸透し、必要不可欠な存在であることが分かりました。

ただし、「友人や知人との会話中に携帯電話を操作されると、よい気分ではない」(74.1%)、「他人が使用している携帯電話の利用マナーについて気になることがある」(82.0%)と利用マナーを気にする人も多く、「携帯電話に振り回されているような気分になることがある」(35.7%)など、携帯電話を厄介な存在と感じる方もわりと多いようです。

## 考え方・使い方で分かる 携帯ユーザー6タイプ

昨年実施したアンケートを分析すると、人々が携帯電話に対して持つ感情には「安心」「必携」「自己表現」「厄介」「警鐘」「マナー」の6つの要因が強く影響していることが分かりました。さて、あなたはどのタイプ？

シンプル

全体の  
23.7%



### 機能はシンプルに限る！タイプ

他人の携帯電話の利用マナーに敏感で、全体的に好ましい印象を持っていないタイプです。年齢層が比較的高いためか、機能がシンプルで操作が簡単な携帯電話を利用している方に多いようです。

エンジョイ

全体の  
14.9%



### デジタルライフに夢中！タイプ

携帯電話は生活をサポートしてくれる道具。誰かと一緒にいても気にせず携帯電話を操作してしまったり……。『携帯電話の使いすぎで対面での付き合いがうまくいかなくなっているのでは？』とちょっと心配です。

厄介

全体の  
12.4%



### 携帯電話に振りまわされてますタイプ

携帯電話に夜中に叩き起こされたり、休日に仕事の対応をしたり。「いつでも、どこでもつながっている」携帯電話によって自分の時間が取れなくなることを懸念しているタイプです。

ファッション

全体の  
19.5%



### 携帯電話はアイデンティティのひとつ！タイプ

電話やメールはもちろん、新サービスや機能を積極的に活用するタイプ。新しい機種は必ずチェック！スマホユーザーに多く、自己表現のためストラップをたくさん付けたり、デコったりする人も多いようです。

ホットライン

全体の  
15.0%



### みんな、携帯電話でつながってるタイプ

家族や恋人とのコミュニケーションのために携帯電話が不可欠と感じている人たちです。30～50代の女性に特に多く、友達や子どもと携帯電話でつながることで安心感を得ているようです。

無関心

全体の  
14.5%



### 携帯電話？興味ないねタイプ

携帯電話に対する特別な感情は薄く、「必要な連絡を取る手段として持っているだけ」など、使用も必要最低限にとどめるタイプ。携帯電話そのものへの興味が低いからか、他人の携帯電話マナーにも寛容。男性に多いのが特徴。

#### 調査概要

調査期間：2011/10/28-11/7

調査地域：全国

調査対象者：16歳以上、当社登録調査モニター

調査方法：インターネット調査

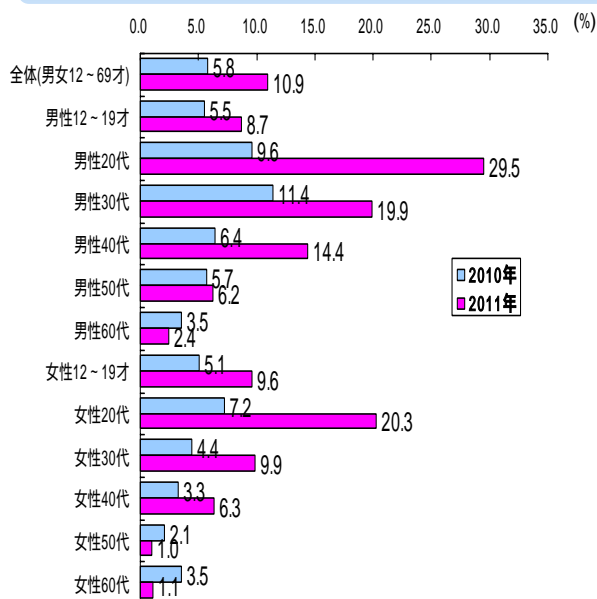
回収数：4,342人

2012年1月24日

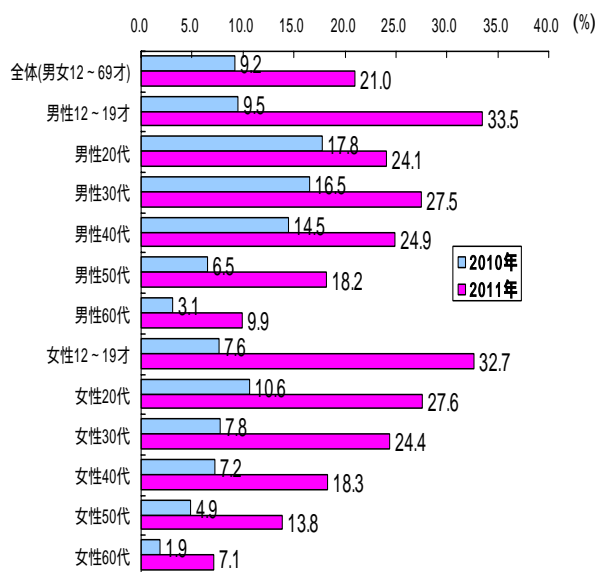
## ますます進む、スマホの所有と所有意向

日本の携帯電話事情について語るとき、スマホの存在は外すことができません。登場以来、急激に存在感を増してきたスマホについてのACR調査結果をご紹介します。

### スマートフォンを持っている人の割合



### スマートフォンが欲しい人の割合(スマートフォン非所有者)



グラフは、ともにACR7地区計(東京30km圏+関西+名古屋+北部九州+札幌+仙台+広島) ウェイト付き集計

2010~2011年にかけてのスマートフォンの所有率は20-30代を中心に大きく伸びていますが、今後の所有意向を見るとそれ以外の年代でも伸びており、スマートフォンは今後一層普及していくと思われます。

「スマートフォン」という言葉が日本で一般的になったのは、ソフトバンクが2008年にアップル「iPhone」を発売し始めてからですが、上記グラフから、所有、欲求が伸びていることがわかります。

ちなみに、ここではご紹介していませんが、いわゆる従来型の携帯電話で多機能な機種である「フィーチャーフォン」の所有率は下がったというデータも得られており、これはフィーチャーフォンからスマートフォンへの「乗り換え」が進んだことを示していると考えられます。

調査結果から、携帯電話という存在の大きさを改めて感じた方も多いのではないのでしょうか。

スマートフォンの普及は目を見張るものがあり、今後も様々なサービスと結びつき、ますます私たちの生活に深く入り込んでくるでしょう。

生活必需品となった携帯電話について、今後も調査を続けていきたいと思えます。